

BOSAI COLUMN

都市コミュニティ研究室 防災コラム

地域と企業の連携

都市コミュニティ研究室 研究員 多田裕亮

6月初めの豪雨で大阪も大雨となり、一部の区では避難所の開設を行なった地域がありました。避難所開設のため多くの防災リーダーが出勤し、実際の災害対応をされたことで、訓練とは異なる気づきを得た方もおられたようです。

地域の防災を担うのは誰？

さて、地域防災活動の中心を担う防災リーダーは、その地域に在住または在勤する人から選ばれます。私が担当する複数の地域では防災リーダーの過半または全員が地域に住んでいる人です。

昼夜問わず常に地域にいる防災リーダーばかりであれば安心ですが、区外に通勤している防災リーダーは災害時地域に帰れず、その役割を果たすことが難しくなります。その場合、地域にいる在勤者がその役割を果たすことができるのでは？とされています。



企業と地域がつながっていないと困ること

在勤者が勤める企業と地域の関係が普段から密であれば、いざという時に助け合うことができますが、お互い交流の機会が見出せず連携が始まらない地域もあります。

その場合、例えば自社を津波避難ビルにした地域があったとしても地域と避難訓練ができず、結果的に貴重な避難場所を無駄にしてしまいかねません。食品を扱う企業は災害時に食糧を提供したくても避難所の仕組みがわからず、必要な場所に適切に支援が届かなくなってしまう可能性があります。そのような事態を防ぐために地域と企業が顔見知りとなり普段から交流できる場づくりが必要であると考えています。

地域と企業がつながる取り組み事例

そのような場の事例として、「あべてん防災コンソーシアム」を紹介したいと思います。

「あべてん防災コンソーシアム」は阿倍野区や天王寺区の地域と企業が集まり情報交換を行えるプラットフォームで、地域の防災リーダーが発起人となり、複数地域の防災リーダーと企業が集まり毎月交流会を行うというものです。新規の人が参加しやすいよう、近鉄百貨店ハルカス本店の協力のもと、百貨店内のフリースペースで交流会を開いています。現在、この連携を加速させていく施策として防災啓発イベントを準備しています。「あべてん防災コンソーシアム」が主催の「あべてん防災スイッチ」は避難所体験や防災ゲーム体験、地域の防災活動の紹介、企業ブースによる備蓄品の販売などを行います。

百貨店やその周辺に来る人々に防災啓発を行うイベントですが、真の目的はイベントで集めた協賛企業にそのまま「あべてん防災コンソーシアム」に継続して参加してもらうことにあり、これを契機により多様なプラットフォームを構築します。

他の地域でも、「あべてん防災コンソーシアム」のように地域と企業が気軽に交流できる場作りを行うことで来たる災害に地域一丸となって備えることができると考えています。